



# カルチャートーク Creators@Kamogawa

Creators@Kamogawa は、日本とドイツのクリエイターが、アートやカルチャーに関連する話題について語り合うイベントシリーズです。

## 第1部：手仕事とデジタル革命

デジタル技術は手仕事の分野をも大きく変革しました。3Dプリンターを使えば、簡単に立体造形物を作成できます。陶磁器や家具のデザイン、吹きガラスの制作などをバーチャルに体験できるアプリもあります。リアルな手仕事は、このまま消滅してしまうのかもしれませんが、しかし、このような方法でアナログのモノづくりを超えることは可能でしょうか。逆に言えば、デジタル化は伝統的な手仕事に良い変化をもたらしているのでしょうか。気鋭のプロダクトデザイナーと、柳宗悦が始めた民藝にも詳しい哲学者が、21世紀の手仕事の可能性について話し合います。

## 第2部：職人の道具箱

大工や職人は、建築技術や道具の使い方を心得ているだけではありません。建築現場の日常、素材の特質、作業の流れなどを熟知していることが相俟って、結果的に設計者の自由度を広げることにつながっています。伝統的な日本の職人たちの「道具箱」とは、いったいどのようなものなのでしょうか。道具箱の中にある「ハード」と、それを使いこなす「ソフト」について理解を深めると、現代における他分野の仕事にも実りをもたらすことになるかもしれません。アートと建築の境界で仕事をするレジデントふたりと、日本唯一の大工道具館の館長が意見を交わします。

トークの後には、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



カイ・リンケ (プロダクトデザイナー)  
Kai Linke (Produktdesigner)

1980年生まれ。オッフェンバハでプロダクトデザインを学ぶ傍ら、デザイン事務所Studio Makkink & Beyや美術家トビアス・レーベルガーらと活動。2009年、フランクフルトに自身のスタジオ設立。照明、家具、公共空間のオブジェ、展覧会やインテリアを手掛ける。2015年よりカッセル芸術大学で教鞭をとる。ヴィラ鴨川滞在中、日本の伝統的な手仕事の技をリサーチし、京都の職人工房とのコラボを目指す予定。www.kailinke.com



鞍田 崇 (哲学者、明治大学理工学部准教授)  
Takashi Kurata (Philosoph, Meiji University)

1970年兵庫県生まれ。京都大学大学院人間・環境学研究所修了。博士(人間・環境学)。総合地球環境学研究所を経て、現在、明治大学理工学部准教授。近年は、ローカルスタンダードとインティマシーという視点から、工芸・建築・デザイン・農業・民俗など様々なジャンルを手がかりとして、現代社会の思想状況を問う。著書・共著に、『民藝のインティマシー 「いとおしさ」をデザインする』、『生活工芸』の時代』、『道具の足跡』など。takashikurata.com



ミハヤエル・ボイトラー (彫刻家)  
Michael Beutler (Bildhauer)

1976年生まれ。フランクフルトとグラスゴーで美術を学んだ後、彫刻と建築の境界領域で活動。ベルリンのハンブルガー・バーンホフ現代美術館(2015年)等で大規模個展を行ったほか、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展(2017年)等に参加。茨城県北芸術祭(2016年)にも参加した。michaelbeutler.com



クララ・ビンドゥル (建築家)  
Klara Bindi (Architektin)

1987年生まれ。アーヘンで建築を学び、ベルリンのArno Brandhuber建築スタジオで活動した。現在、ロンドンのStudio Weaveに所属。ドイツ建築家協会若手奨励賞、EUREGIO建築賞などを受賞。www.studioweave.com  
ヴィラ鴨川滞在中、ボイトラーとビンドゥルは日本の伝統的な手工業、特に素材や時間との向き合い方についてリサーチする予定。



赤尾 建蔵 (竹中大工道具館館長)  
Kenzo Akao (Direktor Takenaka Carpentry Tools Museum)

1967年竹中工務店に入社し、大阪本店設計部にて設計業務に携わる。1995年大阪本店設計部長を経て、2002年財団法人竹中大工道具館館長として出向する。2011年公益財団法人竹中大工道具館館長・理事となり現在に至る。また、1999年より仕事のかたわらNPO法人AAF(Asian Architecture Friendship)をたちあげ、ネパールにて学校建設の活動をしている。



小崎 哲哉 (司会、構成)  
Tetsuya Ozaki (Moderator)

1955年東京生まれ。ウェブマガジン『REALKYOTO』発行人兼編集長。写真集『百年の愚行』『続・百年の愚行』を編著者として刊行し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学舞台芸術研究センター主任研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーも担当した。2018年3月、『現代アートとは何か』を河出書房新社より刊行予定。realkyoto.jp

主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa  
京都市左京区吉田河原町19-3 (川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線31#)  
info@villa-kamogawa.goethe.org  
www.goethe.de/villa-kamogawa

### 〈交通のご案内〉

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分  
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分

館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。(カフェ・ミュラーでの飲食は各自ご負担ください)



© Kai Linke

GOETHE  
INSTITUT  
VILLA KAMOGAWA

